



株式会社ニチレイ

〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号
☎(03) 3248-2101 (代表)
☎(03) 3248-2113 (財務グループ 株式担当直通)

株主メモ

事業年度 4月1日から翌3月31日まで
定時株主総会 6月
定時株主総会議決権基準日 3月31日
期末配当金支払株主確定日 3月31日
中間配当金支払株主確定日 9月30日
上場金融商品取引所 東京・大阪
公告方法 当社公告につきましては、下記ホームページに掲載いたします。

<http://www.nichirei.co.jp/>

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に公告を掲載いたします。

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
〔郵便物送付先〕 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
〔電話お問合せ先〕 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

☎(03) 5213-5213 (代表)

📠 0120-288-324

同 取 次 所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社
本店および全国各支店

ご案内

1. 住所、氏名、配当金の振込先などの変更および単元未満株式の買取り、買増しにつきましては、株主名簿管理人へお問合せのうえ、お手続きください。
2. 配当金をゆうちょ銀行貯金口座へお振込みすることができます。お手続きには振込指定書のご提出が必要です。株主名簿管理人に指定用紙をご請求ください。



この報告書は、環境に優しい大豆油インキを使用して印刷しています。



ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SGS-COC-2499
© 1996 Forest Stewardship Council

株券電子化について

当社を含む上場会社の株券電子化（ペーパーレス化）が、2009（平成21）年1月実施に向けて準備されています。電子化実施後は、これまでのように株主の皆様のご権利を株券で管理するのではなく、証券会社などの金融機関の取引口座で電子的に管理することになります。

これにより電子化実施後は株券の効力は失われてしまいますので、お手元（自宅、貸金庫等）に株券のある方は以下をご参照ください。

株券の名義をご確認ください。

お手元の株券はご本人名義になっていますか？

※ご家族の株券もご確認ください。

Yes

はい

No

いいえ

「名義書換」をしてください。

ご本人以外の名義になっている場合は、電子化により権利を失うおそれがありますので、名義書換が必要です。名義書換については、お取引のある証券会社または当社の株主名簿管理人（みずほ信託銀行株式会社）にお問い合わせください。

株券を証券会社を通じて証券保管振替機構（通称＝ほふり）にお預けいただくと、株券電子化実施後の売却を含め、よりスムーズに新制度に移行できますので、お早めに証券保管振替機構へお預けになることをお勧めいたします。なお、すでに株券を証券保管振替機構にお預けの場合、特段のお手続きは必要ありません。

株券電子化に関するお問合せ・情報は

日本証券業協会 証券決済制度改革推進センター

TEL: 03-3667-4500（平日9:00～17:00）

<http://www.kessaicenter.com>



Vol.19

第90期中間 グループ報告書
2007年4月1日～2007年9月30日



株式会社ニチレイ

証券コード：2871

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。

ニチレイは、品質へのあくなきこだわりと、培われた技術、新しいアイデア、グループトータルネットワークによって、新鮮で、健康なおいしさをお届けし、笑顔のあふれる食卓を創り出していきます。

Contents

株主の皆様へ	2
トップインタビュー	3
新社長紹介	6
中間決算ハイライト	7
中間連結決算概要	8
中間単独決算概要	12
FOCUS	13
KEY WORD	15
INTRODUCTION	16
株式の状況	17
会社概要	18



Profile 表紙絵の画家プロフィール くらもと ふじお 倉本 富士男氏

1951年長野県生まれ。印刷会社にてイラストレーション制作に携わる。1985年よりフリーランスのイラストレーターとして活躍。主な作品は、絵本『いつかブナの森へ』。自然や人をあたたかなまなざしで見つめ、やわらかな色彩とタッチでピュアな心の情景を描き出しています。

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

第90期中間グループ報告書をお届けするにあたり、日頃のご支援に心から厚く御礼申し上げます。

ニチレイグループは本年度より「攻めと挑戦の中期経営計画（2007年度～2009年度）」に基づく取組みをスタートしております。

当中間期の連結業績につきましては、食品関連業界において厳しい事業環境が続くなか、売上高は前年同期並みを計上しましたが、営業利益は原油高や原材料の高騰により前年同期比4%の減益となりました。中間純利益は前年に発生した特別利益がなくなったことから前年同期比22.3%の

減益となりました。

今後の目標達成に向けては、いくつかの課題を解決していかなければなりません。ニチレイグループのブランドステートメントである「おいしさ」と「新鮮」をネットワークするのもと、グループを統括する持株会社である当社を中核として、各事業会社が積極的に業容を拡大し、事業収益性の向上を実現することで、グループの持続的な成長と企業価値の最大化をめざしてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2007年12月吉日

グループミッション・ビジョン

ミッション【使命・存在意義】

くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する。

ビジョン【めざす姿】

ニチレイグループは、卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」として、お客様にご満足いただける優れた品質と価値ある商品・サービスを創造・提供し、広く好感と信頼を寄せられる企業として、社会とともに成長します。



代表取締役会長 浦 聖光人 代表取締役社長 村井 利彰



TOP INTERVIEW

生産性の飛躍的向上を実現するための積極的なコーポレート・ガバナンスを実行していきます。

代表取締役会長
浦野 光人

本年7月より浦野代表取締役会長、村井代表取締役社長の新執行体制が始動しました。中期経営計画(2007年度～2009年度)の初年度がスタートし6ヵ月を経過、最初の中間決算を迎えるにあたり、事業概況および具体的な展開や内部統制などについて、お二人にお聞きしました。

Q 当中間期におけるビジネス環境および業績はいかがでしたか。また、「攻めと挑戦」として位置付けした中期経営計画がスタートしましたが、具体的な取組み内容は。

村井—当中間期の連結業績については厳しい状況が続くなか、売上高は2,310億円、営業利益は79億円、中間純利益は47億円となり、おおむね計画どおり推移しました。

まず、コア事業(加工食品事業、低温物流事業)についてご説明しますと、加工食品事業は、原油の高騰、これに伴う包装資材などの値上げに加え、チキンをはじめとする畜肉など原料の高騰が始まっており、下期にはさらに小麦粉の値上がりも予定されています。

低温物流事業は、国内がほぼ計画どおりに推移したなか、ヨーロッパの事業が景気の好調さに支えられて、予想を

上回る結果を残すことができました。

今年度より「攻めと挑戦」の中期経営計画がスタートしたわけですが、このような状況のなかでコア事業を中心に事業拡大に向け積極的な投資を行っていくことに変わりはありません。いくつか具体的な取組み内容をご紹介しますと、加工食品事業では、新たな事業拡大として三菱商事株式会社様と合併で、在宅生活習慣病患者および生活習慣病予備軍に向けた特別用途食品、カロリー・塩分コントロール食の配食会社株式会社スマイルダイナーを設立しました。また、畜産事業では、川上への事業領域を拡大する目的で、岩手県で「純国産鶏種 純和鶏」の養鶏事業に着手したほか、新規事業の探索の意味合いから有限責任事業組合(LLP)による野菜低コスト生産事業への取組みもスタートしました。

低温物流事業では(株)キョクレイの山下物流センターをはじめ、(株)ニチレイ・ロジスティクス九州の都城、

中期経営計画の完遂のため、全力を尽くし事業運営を推進します。

代表取締役社長
村井 利彰



(株)ニチレイ・ロジスティクス中国の松江などで事業拡大に向けた冷蔵庫の新增設に着手しました。このほかに、障害者雇用を目的として設立した特例子会社(株)ニチレイアウラでは、昨年の船橋事業所に加え本年11月からは東京事業所を開設するなど業務の拡充を図っています。

食品業界を取り巻く事業環境は大変厳しいものがありますが、「攻めと挑戦」の姿勢で「おいしさ」と「健康」の新たな形を求めて積極的に事業を推進していきます。

Q 浦野代表取締役会長、村井代表取締役社長の新体制がスタートしましたが、手応えはいかがですか。

浦野—社会のグローバル化が進み、業界の壁を超えて競争環境が非常に厳しくなっていくなか、ニチレイグループでは2001年より代表取締役2名制とし、さまざまなステークホルダーの方々の多様なご期待にお応えするために、業務を分担し効率的に遂行してきました。

今回は、私浦野がニチレイグループ全体のガバナンスを中心に担当し、社長の村井は、グループのマネジメ

ント＝事業運営を担当する体制で、力をあわせ多様な競争環境を生き抜き、皆様のご期待に応えていくことに注力していきます。

Q 内部統制システムの整備・強化について取組みの状況はいかがですか。

浦野—内部統制そのものは、世の中の流れとして社会全体からの要請であり、当社も昨年5月に新会社法に則ったニチレイグループ各社の内部統制方針を決め実行に移しました。

さらに昨年11月に出されたガイドラインに基づき、金融商品取引法という視点でマーケットの信頼を得るために、内部統制について本年2月頃まで検討を続けてきました。

こうしたなかで、内部統制を単に新たな法令への対応という視点にとどまることなく、私どもの業務を一から見直すための大きなチャンスととらえるべきという結論を得ました。これを踏まえ、本年3月より持株会社である(株)ニチレイに内部統制推進グループを設置しました。次ページのとおり、第1フェーズから、第3フェーズへと推進しております。



TOP INTERVIEW

法令対応だけにとどまらず、業績の向上・生産性の飛躍的な向上につながるよう前向きにとらえていきたいと考えています。

第1フェーズ：ニチレイグループ内部統制システムの整備・強化に向けた各フェーズでの取組み内容の基本計画・基本方針の策定と決定

第2フェーズ：ニチレイグループの内部統制環境の現状把握。対象となる業務の棚卸と法令遵守・透明性の保持・リスク軽減などの視点に基づく業務記述、業務フローチャートなどの作成。IT関連業務の棚卸および整備方法の決定

第3フェーズ：ニチレイグループ対象事業拠点への業務フローチャートなどの展開および各拠点での内容検証。IT関連業務の整備。2008年度に向けた運用テストの準備

Q ニチレイグループとして環境問題にどのように取り組んでいますか。

村井―環境問題に対する基本的な考え方というのは、リデュース(Reduce：削減)、リユース(Reuse：再利用)、リサイクル(Recycle：再生利用)の3つのRであると考えています。まず、環境を壊すようなものを減らしていく、次に使い捨てせずに再利用する、最後は、リサイクルをするということです。

私どもの事業活動のなかでは、生産段階において食品残渣さんさの問題があります。まずこれを減らしていく、減らすだけではなく、肥料や飼料として再利用も研究していま

す。また、物流の分野では、CO₂増加の問題を考えると、共同配送に積極的に取り組む必要があります。このことは、環境問題の視点からも重要なことですが、物流も効率化され事業としても大きなメリットがあります。すでに実施している百貨店の共同配送に加え、冷凍食品メーカーの枠を超えた共同配送のしくみを提案していきます。

Q 最後に株主の皆様へ向けてメッセージをお願いします。

村井―私の最大の使命は、この中期経営計画(2007年度～2009年度)の完遂に向けて全力を傾注することです。中期的な数値目標を達成するだけでなく、企業としての社会的責任の遂行あるいは、株主の皆様やあらゆるステークホルダーからのご期待に応えていくことが社長の使命であると考えています。この姿勢のもと、中期ビジョンならびに中期経営計画の完遂に向けて全力を尽くすことで株主の皆様への付託にお応えしていきます。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



新社長紹介



代表取締役社長

相馬 義比古



代表取締役社長

長谷川 寿



代表取締役社長

三田 勇太郎

株式会社ニチレイフーズ (加工食品事業)

「品質と挑戦」をキーワードに新しい価値創造に挑戦し続けます。

素材の持つ健康価値、作りたてのおいしさを損なわずにお客様にお届けしたい。

私どもニチレイフーズの先達たちは、冷凍技術を磨き、高め、日本の食の充実に貢献してまいりました。人々の暮らしを笑顔で満たすという先達の想いを私たちは受け継いでおります。

私たちの仕事は「おいしく」「健康に良い」そして「楽しく」「簡単に便利」しかも「安全で安心」な商品を「価値に見合った価格で」「安定的に供給」するという7つの基本価値をさらに磨きあげ、高い顧客価値を創造することにあります。

私たちの仕事のひとつひとつが、おいしさによって満たされる笑顔、健康でいきいきとした笑顔、家族全員の和やかな笑顔、そして食を通じた豊かな心の創造につながっています。その想いを胸に、確かな素材、ゆるぎない品質、お客様のご要望をつかむ情報力を最大限に発揮し「最も信頼される」食品企業として私たちの仕事・そして夢と感動を世界へ広げていきたいと思っております。世界中の笑顔に出会うために、ニチレイフーズはこれからも新しい価値創造に挑戦し続けてまいります。

株式会社ニチレイフレッシュ (水産・畜産事業)

私の使命

『生と死の妙薬』という表題の文学書のような新刊本が科学の棚に並んでいる。表題に惹かれて借りてみることにした。中学校2年生の私の名著『沈黙の春』との出会いであった(再版本からは原題を忠実に訳した『沈黙の春』となった)。時は流れて43年、ニチレイフレッシュの社長となった

私であるが、食品会社に就職したのも『沈黙の春』の影響があったのであろうか。

ニチレイフレッシュ「こだわり素材」の6つのキーワード「鮮度」「おいしさ」「安全」「安心」「健康」「環境にやさしい」の実現、それが私の使命と考えている。“この地球は子供たちからの預かり物だから(『沈黙の春』の巻末の言葉より)”

株式会社ニチレイプロサーヴ (シェアードサービス事業)

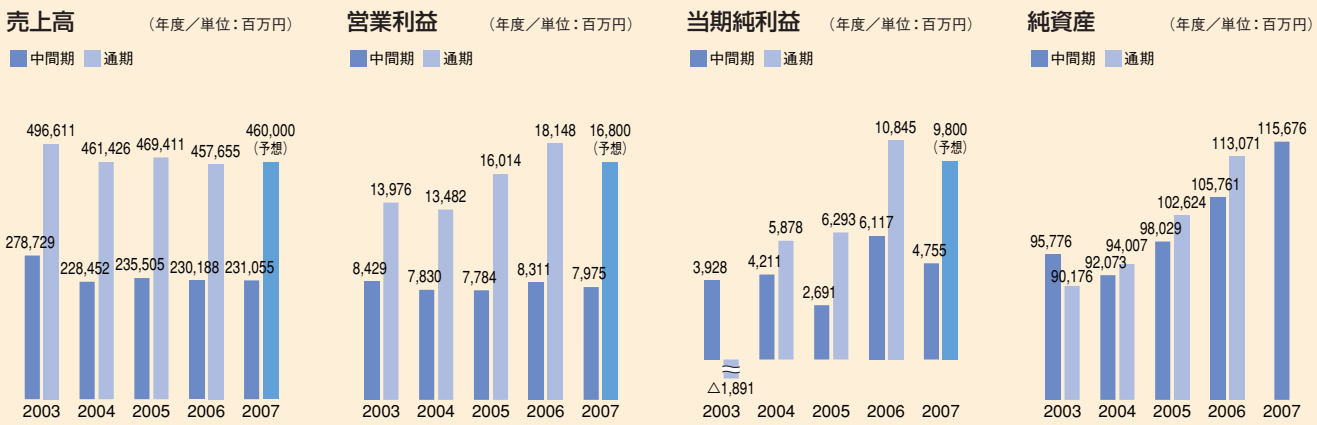
「お客様の立場から」を行動の原点に。

日本企業の経営サポートニーズが高度化・多様化するなか、当社はニチレイグループで培った業務ノウハウや専門スキルを活かし、グループ企業をはじめとする企業顧客の皆様へ経営支援機能に関わるサービス・商品を提供してまいりました。

2007年度から3ヵ年にわたるグループ中期経営

計画の目標達成に向け、当社は「お客様の立場から」という発想をすべての行動の原点に据え、現場から生まれる一人ひとりの創意工夫を大切にしながら常に品質の改善に取り組むとともに、最適なソリューションを迅速にご提案できる組織の強化に努めてまいります。

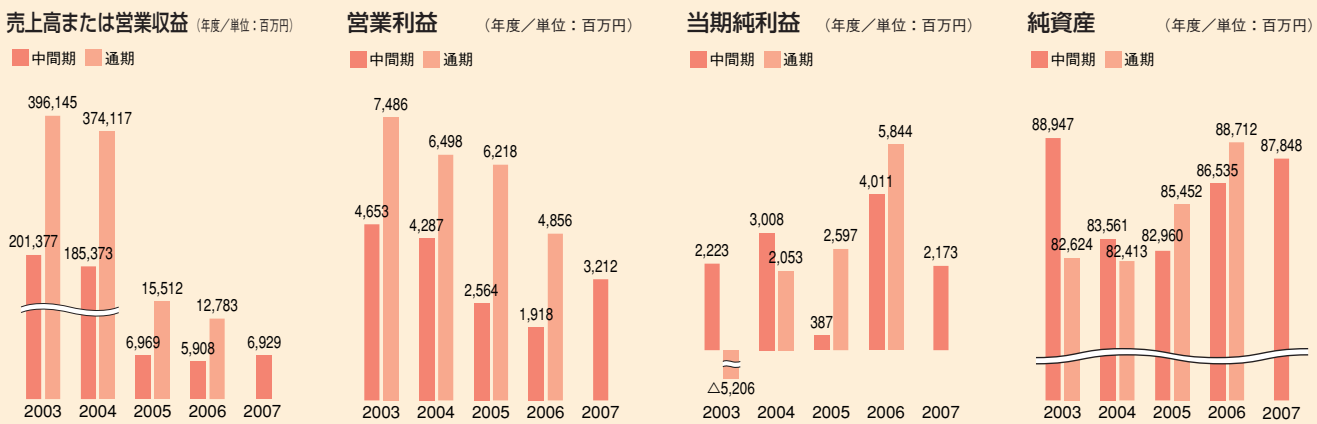
連結



(注) 1. 2003年度～2005年度における「純資産」には、会計基準の変更に伴う少数株主持分は含まれていません。
2. 連結通期予想(2007年10月30日公表)は、公表時点における情報に基づき判断されたものです。実際の業績につきましては、経営環境の変化等により記載した予想とは異なる結果になる可能性があります。

単独

※中間配当金は1株につき4円とし、2007年12月4日を支払開始日とさせていただきます。



(注) 2005年4月1日付で持株会社体制へ移行したことにより、2005年度中間期から当社の単独決算数値は持株会社としての実績値となっております。

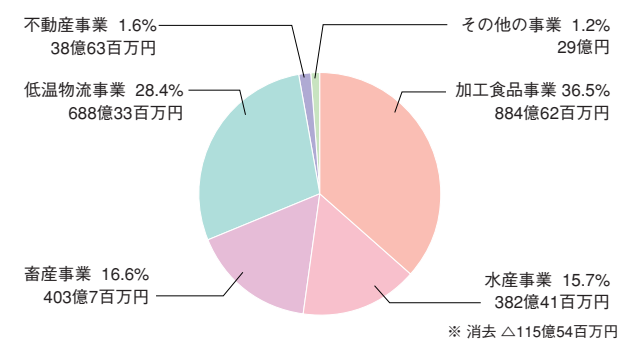
● 連結子会社数 68社 ● 持分法適用関連会社数 15社

当中間期は、低温物流事業における海外事業や不動産事業の土地の販売が伸長しましたが、加工食品事業における家庭用の調理冷凍食品やアセロラなどが低調に推移したことにより売上高は前年同期並みの2,310億55百万円を計上しました。

利益面では、低温物流事業は増益となりましたが、加工食品事業や円安などの影響を受けた水産事業が減益となり、営業利益は79億75百万円を計上し、前年同期比4%の減益となりました。経常利益は金融収支は改善したものの営業利益の減少や前期に計上した持分法投資利益が減少したことから77億7百万円の計上となり、前年同期比4.1%の減益となりました。

特別損益につきましては、海外子会社(米国子会社：Tengu Company, Inc.) が所有する土地・建物等の売却による固定資産売却益6億10百万円などの特別利益を計上する一方、固定資産の撤去費用として固定資産除却損4億41百万円などを特別損失に計上したことから、その結果として59百万円を計上しました。特別損益、税金費用ならびに少数株主利益を加減算した中間純利益は47億55百万円となりました。

セグメント別売上高構成比



セグメント情報

当中間期 2007年4月1日から2007年9月30日まで (単位：百万円)

	売上高	営業費用	営業利益
加工食品事業	88,462	86,968	1,493
水産事業	38,241	38,584	△ 342
畜産事業	40,307	40,020	287
低温物流事業	68,833	64,497	4,335
不動産事業	3,863	1,636	2,226
その他の事業	2,900	2,893	7
計	242,609	234,601	8,007
消去または全社	(11,554)	(11,521)	(32)
連 結	231,055	223,079	7,975

前中間期 2006年4月1日から2006年9月30日まで (単位：百万円)

	売上高	営業費用	営業利益
加工食品事業	91,385	88,248	3,137
水産事業	37,378	37,612	△ 234
畜産事業	40,039	39,790	248
低温物流事業	67,184	63,705	3,479
不動産事業	3,461	1,661	1,799
その他の事業	3,515	3,512	2
計	242,964	234,531	8,432
消去または全社	(12,775)	(12,654)	(120)
連 結	230,188	221,876	8,311

中間連結決算概要

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。
2. ポイントにおける記載金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

中間連結貸借対照表 (要旨)

(単位: 百万円)

区 分	当中間期 2007年9月30日現在	前 期 2007年3月31日現在
流 動 資 産	115,276	107,660
固 定 資 産	156,284	161,505
有 形 固 定 資 産	107,793	109,534
無 形 固 定 資 産	3,588	3,620
投 資 そ の 他 の 資 産	44,902	48,350
資 産 合 計	271,561	269,166
流 動 負 債	92,739	86,289
固 定 負 債	63,144	69,805
負 債 合 計	155,884	156,094
株 主 資 本	103,719	100,543
資 本 金	30,307	30,307
資 本 剰 余 金	23,710	23,709
利 益 剰 余 金	50,051	46,847
自 己 株 式	△ 351	△ 321
評 価 ・ 換 算 差 額 等	9,702	10,491
少 数 株 主 持 分	2,254	2,036
純 資 産 合 計	115,676	113,071
負 債 純 資 産 合 計	271,561	269,166

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 181,065百万円
2. 保証債務 2,638百万円

貸借対照表のポイント

POINT

(括弧内は前期末比の増減)

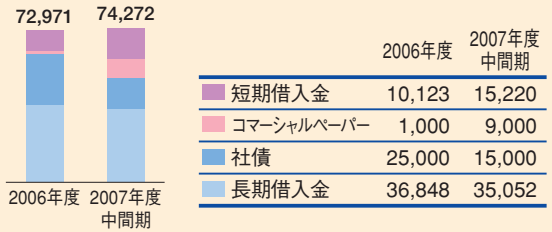
総資産	2,715億円 (23億円の増加)
○投資有価証券の時価下落や有形固定資産の減価償却、Tengu Company, Inc. (米国子会社。2007年12月末で解散予定) の土地・建物等の売却などから固定資産が52億円減少	
○受取手形および売掛金が77億円増加	
負債	1,558億円 (2億円の減少)
○季節的な営業資金の増加などにより有利子負債は13億円増加	
○未払法人税および繰延税金負債が30億円減少	
純資産	1,156億円 (26億円の増加)
○中間純利益47億円、配当金支払い15億円、評価・換算差額など7億円減少	

有利子負債のポイント

POINT

有利子負債は、設備投資による支出や季節的要因による営業資金の増加などにより前期より13億円増加し、742億円となりました。
なお、期初予想に比べ設備投資の進捗遅れなどにより、2008年3月期末予想を650億円に修正しました。(2007年10月30日公表)

有利子負債の状況 (単位: 百万円)



中間連結損益計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

区 分	当中間期 2007年4月 1日から 2007年9月30日まで	前中間期 2006年4月 1日から 2006年9月30日まで
売 上 高	231,055	230,188
売 上 原 価	185,908	185,390
売 上 総 利 益	45,146	44,797
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	37,171	36,486
営 業 利 益	7,975	8,311
営 業 外 収 益	1,100	1,371
営 業 外 費 用	1,367	1,649
経 常 利 益	7,707	8,033
特 別 利 益	679	3,770
特 別 損 失	738	1,109
税 金 等 調 整 前 中 間 純 利 益	7,648	10,693
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	2,171	2,298
法 人 税 等 調 整 額	665	2,281
少 数 株 主 利 益	55	—
少 数 株 主 損 失	—	3
中 間 純 利 益	4,755	6,117

損益計算書のポイント

POINT

(括弧内は前年同期比の増減)

売上高	2,310億円 (8億円の増収)	○加工食品事業は家庭用の調理冷凍食品やアセロラなどが減収 ○低温物流事業は海外事業が伸長 ○不動産事業は順調に推移
営業利益	79億円 (3億円の減益)	○加工食品事業は売上の減少と原油価格や穀物市況の高騰などによる製品・原材料の調達価格の上昇により減益 ○低温物流事業は海外事業や物流ネットワーク事業が好調に推移し増益 ○不動産事業は増益
経常利益	77億円 (3億円の減益)	○金融収支は改善 ○営業利益の減少や前期の持分法適用関連会社の異動により持分法投資利益が減少
中間純利益	47億円 (13億円の減益)	○特別利益 6億円 ・Tengu Company, Inc. (米国子会社。2007年12月末で解散予定) が所有する土地・建物等の売却により、固定資産売却益6億円を計上 ○特別損失 7億円 ・固定資産除却損4億円を計上 ・Tengu Company, Inc. の解散決定などに伴う損失見込額1億円を計上

中間連結決算概要

(注)1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。
2. ポイントにおける記載金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

区 分	当中間期 2007年4月 1日から 2007年9月30日まで	前中間期 2006年4月 1日から 2006年9月30日まで
●営業活動によるキャッシュ・フロー	4,422	1,052
●投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,414	1,818
●財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 589	△1,469
現金及び現金同等物に係る換算差額	279	51
現金及び現金同等物の増加額	698	1,453
現金及び現金同等物の期首残高	3,514	3,290
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,213	4,743

キャッシュ・フロー計算書のポイント POINT

(括弧内は前年同期比の増減)

営業活動によるキャッシュ・フロー 44億円の収入 (33億円の増加)

- 経常利益は77億円、非資金費用の減価償却費は46億円で前年同期並み
- 営業資金(売上債権、たな卸資産、仕入債務)の支出44億円および法人税などの支払い42億円の支出

投資活動によるキャッシュ・フロー 34億円の支出 (52億円の減少)

- 有形固定資産の取得による47億円の支出
- Tengu Company,Inc. (米国子会社。2007年12月末で解散予定)の土地・建物等の売却による15億円の収入

財務活動によるキャッシュ・フロー 5億円の支出 (8億円の増加)

- 設備投資による支出や季節的な営業資金の増加などにより有利子負債で10億円増加、配当金支払い15億円の支出

以上により、当中間期末の現金及び現金同等物の残高は、前年中間期末に比べ6億98百万円増加し42億13百万円となりました。

中間単独決算概要

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

中間単独貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

区 分	当中間期 2007年9月30日現在	前 期 2007年3月31日現在
流動資産	38,506	33,632
固定資産	138,789	144,930
資産合計	177,295	178,562
流動負債	33,946	28,634
固定負債	55,501	61,215
負債合計	89,447	89,849
株主資本	82,642	82,048
資本金	30,307	30,307
資本剰余金	23,710	23,709
利益剰余金	28,927	28,304
自己株式	△ 304	△ 273
評価・換算差額等	5,206	6,664
純資産合計	87,848	88,712
負債純資産合計	177,295	178,562

中間単独損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

区 分	当中間期 2007年4月 1日から 2007年9月30日まで	前中間期 2006年4月 1日から 2006年9月30日まで
営業収益	6,929	5,908
営業費用	3,716	3,989
営業利益	3,212	1,918
営業外収益	1,162	1,249
営業外費用	511	527
経常利益	3,864	2,640
特別利益	0	4,092
特別損失	174	226
税引前中間純利益	3,690	6,506
法人税、住民税及び事業税	671	406
法人税等調整額	845	2,087
中間純利益	2,173	4,011

中間連結株主資本等変動計算書

(2007年4月1日から2007年9月30日まで)

(単位:百万円)

区 分	株主資本					評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2007年3月31日残高	30,307	23,709	46,847	△ 321	100,543	8,203	312	1,975	10,491	2,036	113,071
中間連結会計期間中の変動額											
剰余金の配当			△ 1,551		△ 1,551						△ 1,551
中間純利益			4,755		4,755						4,755
自己株式の取得				△ 34	△ 34						△ 34
自己株式の処分		1		4	5						5
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						△ 1,568	△ 204	983	△ 789	218	△ 571
中間連結会計期間中の変動額合計	—	1	3,204	△ 30	3,175	△ 1,568	△ 204	983	△ 789	218	2,604
2007年9月30日残高	30,307	23,710	50,051	△ 351	103,719	6,635	107	2,959	9,702	2,254	115,676

中間単独株主資本等変動計算書

(2007年4月1日から2007年9月30日まで)

(単位:百万円)

区 分	株 主 資 本										評価・換算差額等		純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価 差額金	評価・ 換算差額 等合計		
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金								利益 剰余金 合計
						固定資産 圧縮積立金	別途 積立金	繰越利益 剰余金						
2007年3月31日残高	30,307	7,604	16,104	23,709	39	746	20,510	7,008	28,304	△ 273	82,048	6,664	6,664	88,712
中間会計期間中の変動額														
別途積立金の積立							2,900	△2,900	－		－			－
剰余金の配当								△1,551	△1,551		△1,551			△1,551
中間純利益								2,173	2,173		2,173			2,173
自己株式の取得										△ 34	△ 34			△ 34
自己株式の処分			1	1						4	5			5
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額(純額)												△1,458	△1,458	△1,458
中間会計期間中の変動額合計	－	－	1	1	－	－	2,900	△2,277	622	△ 30	593	△1,458	△1,458	△ 864
2007年9月30日残高	30,307	7,604	16,106	23,710	39	746	23,410	4,731	28,927	△ 304	82,642	5,206	5,206	87,848

ニチレイグループの環境活動紹介

お客様の食卓に新鮮でおいしい食品を届け続けるために、食材の調達、製造・加工、保管・流通などの活動のなかで、経営姿勢である「資源と環境を大切にする」の実践に取り組んでいます。

ニチレイフーズ 食品くずを飼料にする取組み～白石工場

食品くずが飼料になるまで



パン粉くず



春巻の皮くず

飼料化



発酵乾燥装置

飼料利用



飼料として利用

宮城県白石市にある白石工場は、春巻やクリームコロッケ、グラタンなどを生産しています。生産工程では、製品にならなかった春巻の皮や具、パン粉などが発生します。

こういったムダを減らすよう日々努力をしていますが、生產品目の変更などで、どうしても出てしまう食品くずを有効利用するため、工場敷地内に発酵乾燥装置を導入しました。そこでできたものを「飼料として地元の畜産農家の方々に使っていただく」という取組みを始めています。

今後とも地域と密着したこの活動を推進していきます。



この取組みの様子は、NHKニュース「おはよう日本」(10月9日放送)にて紹介されました。

ニチレイフレッシュ ^{いのち}「生命の森プロジェクト」への取組み

ニチレイフレッシュは、10年来インドネシア・カリマンタン島タラカン市のビジネスパートナーよりエビの調達を行っています。

エビ養殖により、池が造成され多くのマングローブ林が失われていると言われていることから、2006年12月、当社は「生命の森プロジェクト」を立ち上げ、タラカン市と現地のビジネスパートナーとともにマングローブ林拡大のための支援を開始しました。

このプロジェクトは、環境への配慮と持続的な素材調達をめざした新しいスタイルの環境貢献活動で、エビの購入に関わる当社の収益金の一部が、マングローブの植林活動に役立つしくみになっています。今後ともこの活動を継続していきます。



▲タラカン市のエビ養殖池と周辺に広がるマングローブ林



◀(株)ニチレイフレッシュ 長谷川寿社長(左)による植林の様子

ニチレイロジグループ 環境に配慮した配送車両導入

ニチレイロジグループのロジスティクス・ネットワークでは、輸送、配送業務を委託している全国68社の協力運送会社向けに、統一仕様の車両を企画しました。

この車両は、環境面の配慮から、新長期排ガス規制のNOx(窒素酸化物)値やPM(粒子状物質)値を約10%低減した中型冷凍車で、車両のボディや付属冷凍機についても、機能の向上を図りました。

また、車両の状態を常に良好に維持させる目的で、車両の一元管理も同時に行います。

来年度は約50台の調達を計画、以後毎年更新する車両ならびに新規事業に関わる車両について、新たにこの車両を導入していく計画です。5年後を目標に4トン車両については統一仕様の車両となる予定です。



統一仕様の車両

ニチレイグループWebサイトに『ニチレイグループ社会環境報告書 2007』を掲載しています。是非、ご覧ください。
<http://www.nichirei.co.jp/corpo/env/index.html>

Key Word

ニチレイグループならではの企業活動やトピックスなどをキーワードによりご紹介します。

キッザニア

ニチレイフーズは2006年12月1日より、キッザニア東京に＜食品開発センター＞のパビリオンを出展しています。

パビリオンでは、現在、米飯を使ってオリジナルの冷凍ピラフやチャーハンを作るアクティビティを実施しています。実際の開発業務でも扱うスノードライ（ドライアイスパウダー状にしたもの）を使用するなど本格的な内容でご好評をいただいています。

普段商品として目にしている冷凍ピラフを実際に自分で作ってみることで、食品開発の面白さを経験

できるとともに、未来を担う子供たちに「食」について考える力や想像力を養ってもらえればとの思いが込められています。

また、社会貢献活動の一環として、ニチレイグループ社員の寄付からなる『ふれあい基金』より、特定非営利活動法人 交通遺児等を支援する会の会員ご家族30組60名様をご招待しています。



ニチレイブースパビリオンにて



© KidZania

キッザニアとは



1999年にメキシコで誕生し社会のしくみを体験する【エデュケーション（学び）】+【エンターテインメント（楽しさ）】を目的とした【エデュテインメントタウン】です。

キッザニア東京は、2歳から12歳を対象（2歳から15歳まで体験可能）とし、消防署、病院、銀行、空港、お菓子工場、理容店などバラエティ豊かな約70のお仕事が体験できる、子供が主役の施設です。

Introduction

ご好評の商品をご紹介します。

いっしょに食べよう。いっしょに笑おう。

Nニチレイ

蔵王山麓グラタン

家庭用



蔵王山麓のミルクを使い、ていねいに仕上げたクリーミーなホワイトソースと、蔵王産モッツアレラチーズ。リッチな味わいのえびグラタンです。
※シリーズ品として、蔵王山麓ドリアも同時に発売しています。

大人の鶏ごぼうめし

家庭用



炭火で香ばしく焼いた鶏肉がゴロゴロ入った鶏めしです。鶏の旨みをきかせたごはん、煮込んだごぼうを加え、風味豊かに仕上げました。

お弁当にGood！ 黒ごまおさつ丸

家庭用



食物繊維が含まれるさつまいもを、スイートポテトのようになめらかにほんのり甘く仕上げたコロケです。

鉄板焼きめし

（ダブルソース使用）

業務用



鉄板でしっかりと炒めたソース味が特徴のチャーハンです。スパイシーなウスターソースと甘みとコクのある濃厚な2種類のソースを使用することで味わい深い香りに仕上がりました。

豆腐と山芋のひじき包み

業務用



豆腐と山芋の生地、ひじき、にんじん、枝豆、ごぼう、鶏肉を包んだ和風のお惣菜です。透明感のある和風ダレがおいしさを引き立てます。

じゃがいも極だつポテトコロケ（雪国まいたけ）

業務用



フレッシュの「雪国まいたけ」をバターでソテーし、香り豊かなコロケに仕上げました。じゃがいも本来のおいしさとまいたけの旨みが非常によく合うコロケです。
※じゃがいも極だつポテトコロケシリーズに新たに加わった商品です。

家庭用 商品のお問合せ先：お客様相談センター ☎0120-69-2101【受付時間：9:00～17:00（土、日、祝日を除く）】

株式の状況 (2007年9月30日現在)

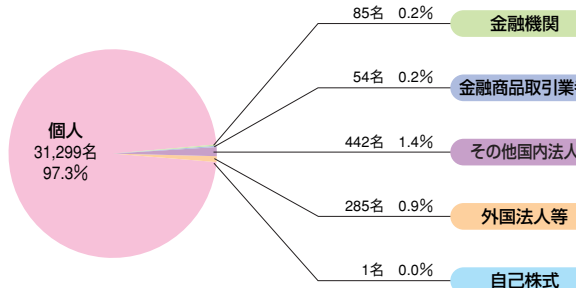
発行可能株式総数 720,000,000株
発行済株式総数 310,851,065株
※発行済株式総数には、自己株式(694,803株)を含んでいます。
単元株式数 1,000株
株主数 32,166名

●大株主

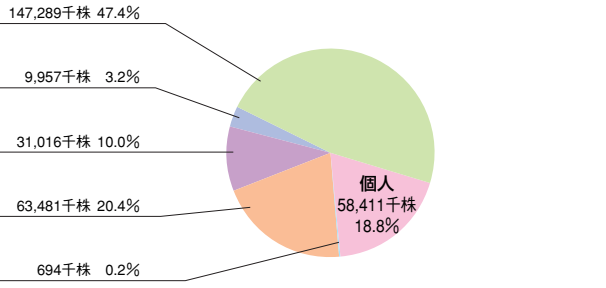
株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	18,383	5.9
日本生命保険相互会社	16,785	5.4
株式会社みずほコーポレート銀行	15,370	4.9
株式会社三菱東京UFJ銀行	13,903	4.5
株式会社損害保険ジャパン	11,059	3.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,971	3.5
第一生命保険相互会社	5,716	1.8
みずほ信託退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託	5,598	1.8
農林中央金庫	5,350	1.7
富国生命保険相互会社	4,100	1.3

(注) 持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。

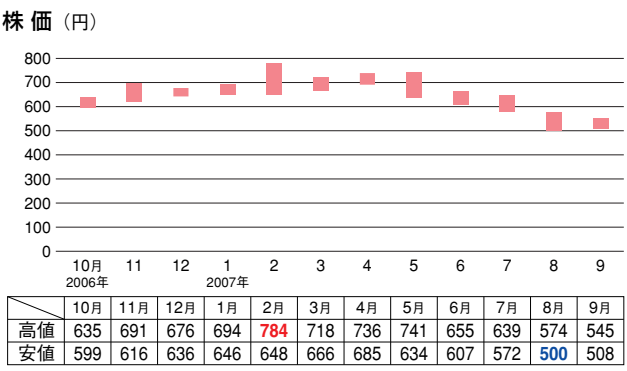
●所有者別株主数分布状況



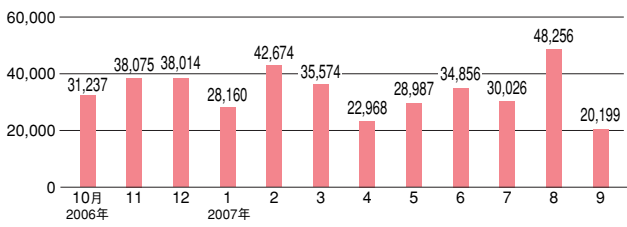
●所有者別株式数分布状況



●株価チャート



出来高 (千株・月間合計)



会社概要 (2007年9月30日現在)

社名 株式会社ニチレイ
所在地 〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号
ニチレイ東銀座ビル
設立 1942年12月
従業員数 66名 (参考) ニチレイグループ 6,047名

役員	代表取締役 会長	浦野 光 人
	代表取締役 社長	村 井 利 彰
	取締役 専務執行役員	相 馬 義比古
	取締役 専務執行役員	長谷川 寿
	取締役 常務執行役員	三 田 勇太郎
	取締役 執行役員	河 合 義 雄
	取締役 執行役員	荒 剛 史
	社外取締役	廣 瀬 光 雄
	社外取締役	炭 谷 俊 樹
	社外取締役	川 俣 美由里
	監査役 (常勤)	大 塚 恒 博
	監査役 (常勤)	永 塚 一 昭
	社外監査役 (非常勤)	佐 藤 正 昭
	社外監査役 (非常勤)	齊 田 國太郎
	執行役員	中 村 隆
	執行役員	山 田 達 男
	執行役員	森 康 益

会計監査人 新日本監査法人
東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日比谷国際ビル



(株)ニチレイ本社ビル

<http://www.nichirei.co.jp/>
情報満載のホームページ

事業紹介や株主・投資家向け情報はもちろん、
皆様のお役に立つ商品・サービス情報を掲載しています。

